

令和5年度 環境審議会

日時：令和6年3月14日（木）

14時00分～

場所：海津市役所 災害対策本部室

出席者 委員9名

欠席者 委員3名

事務局 市民環境部長、環境課長以下3名

会議次第（14:55 開会）

1. あいさつ（桑原会長）

1月に発生いたしました能登半島地震で被災された皆様には、心からのお見舞いと早期の復興を願っております。昨年は第3次環境基本計画、地球温暖化対策実行計画の策定に対してご審議をいただき、ありがとうございました。皆様ご承知の通り、現在温暖化がもとと考えられる世界各地で発生する大規模な自然災害や、環境整備に対して速やかな行動が求められております。

2. 報告事項

第2次環境基本計画（前計画）の実施状況について

事務局より、資料1の令和4年度状況報告をするとともに、資料2に記載の令和5年度分について実施・進捗状況を説明した。

（質疑）

中島委員 資料1の産業廃棄物処分場跡地2か所と書いてありますが、これは資料2の方の徳田と福江と同じところですか。

事務局 これは違います。海津市が運営している瓦礫等の処分場ではなく、民間が産業廃棄物として処分をしていたところで、今、東海環状自動車道の工事箇所との辺りです。いずれの箇所とも追跡継続、毎月の継続検査をしている。

西濃地域は、自然的にヒ素が出ることが多い地域でございます。今まで周囲にそういう人を使うような工場とか、そういうのを確認されておりません。あと、廃棄物の搬入についても、搬入前には職員が確認して、瓦礫や陶器のみの搬入を行っているところで検出されたということで、何ともちょっと原因については分からない。

ただ、福江処分場については、なかなか0.01（基準値）を下回らないので、継続的に毎月検査をしている状況である。

中島委員 今の戸田の方がもう廃棄物の処分場は終わっていますよね。いつまで大体何年ぐらい管理されるつもりですか。3年ぐらいで地元に戻されるというようなお話を聞いていますが。

事務局 戸田につきましてはもう今閉鎖して搬入の方は受け付けていない。ただ閉鎖後3年ほど検査を実施した後、問題がなければ返却という形になっておりますので、令和8年の3月末までは市で管理していくという形である。

なお、資料2の苦情対応件数について、これまでは、市報に年1回掲載の啓発で行っていましたが、昨年の秋に自治会への回覧を発出した。

そうしたら思った以上に色々な声をお聞きし、本当に小さなものから結構な量を燃やされる方、大規模にやられる方、全て電話等入っておきまして、どうしても対応した件数が非常に増えてしまったというような状況になっておりますので、ちょっとご理解の方よろしくお願ひしたい。

続いて、事務局より資料3の「市内公共用水の水質分析の報告」、地球温暖化対策として、当日配付した「市域の温室効果ガス排出量の現況について」「海津市地球温暖化対策実行計画の実施状況等について」「令和5年度海津市再生可能エネルギー導入調査委託業務概要版」の各資料について順次説明。

その後、事業紹介として、現在実施している「家電買換え補助事業」について説明と状況報告。

次年度計画事業として、水素自動車やFCV自動車への購入補助を考えている。(1世帯もしくは1事業者あたり1台で10万円の補助)

フードドライブについて、今年度産業感謝祭で2日間実施し、食品を扱う出店が多い中で、家の残っているものを持ってくる人がいるのかという心配があったが、それでも175点、53キロを超える食料品が集まったことに、本当に市民の皆さんの意識が結構変わってきているのかなと思う。こちらについても来年度も継続で、小さいことかもしれないが続けていきたいと思っている。と報告。

各委員から意見等を順に発表。

桑原委員 ゴミカレンダーとかゴミステーションって書いてあるのがちょっと気になっています。資源も入っているのに、ゴミ、ゴミって何かなっ

ていう風に思います。もう少し資源を強調してみてもいいかですか。

岡田委員 水素自動車やFCV自動車への購入補助は、補助金を利用したの普通でしょうね、民間がやった場合そういうのが今度は受けられない場合に採算ベースで我々がやれば、買うのかなというところがあるのですが…

木村委員 実際これ、目に見えて見えないところだと思います。結果としては数年後50年後に子供たちのために環境の配慮ということで頑張ってみようと思います。引き続き頑張っていたらいいのかなと思うのですが、なんせ目に見えないというところからのスタートだと思うので、これからも頑張っていたきたいと思います。

先ほどのエコキュートとかエアコンの補助金、の枠が120件でいっぱいあったら終わりということで、追加はされるのですか。

事務局回答 エコキュートとかエアコンの補助金は、120件の最大5万円を皆さんが使われるという想定で600万円の補助金を設定した。

全くどれくらい来るのかっていう読めない状況の中で、これでいろんな意見ありましたが、今のところ50件ほど、残り70件ほどです。追加については、単独で出していくのは非常に難しい話であって、ちょうど国からの交付金が5年度6年度にまたがって使えるということで、それを活用させていただいております。

どうしても交付金を活用するって、なおかつ年度を跨るということで、なかなか難しいところである。ただ、あまりにも多いような状況でしたら、新たな何かを提案をしていきたいと思っている。

ちょっと別の環境的な話に繋がるのは、これまで一斉美化運動は年2回実施しておりました。その中で現場の職員、また、これまで環境課で行ってきたアンケートをとっていった中で、「自治会の活動として年2回が非常に負担になっている。1回やめるか、せめて年1回にしてくれ」という声を非常に多く聞きました。来年度一旦、市が主催するものとしては、10月の1回にさせていただきます。ただ、自治会とか、事業所単位とか、子供会、老人クラブとかそういう団体様が、任意で行うようなときは、事前に申し出ただけであれば、ゴミ袋の提供と、集積物の回収は環境課の方で対応させていただくということで行わせていただきたいと思っているので、その辺の方もご理解の方よろしくお願ひしたい。

中村委員 日頃は環境保全事業リサイクルに今回ご協力賜りありがとうございます。私の方は先ほど同最初の経過報告のところでも5Rの推進が少し

あるということで、当社の方は地元の企業そしてリサイクルの会社という形で、ペットボトル食品等あと下水道からDNAのリサイクル、そして先ほど会長様の方から南濃町にエコドームがあるということで、平田地区にも当社が運営するリサイクルセンターというものがございます。お金は一切いただきませんので、資源をどんどん持ち込みいただいて、リサイクルの推進にご協力できたらなと思っております。

あとはもう一つ1年ほど前に少しご紹介いただいたのですが、本当に微力少量ではあるのですが、天ぷら油のリサイクルの方をさせていただいております、先ほどご報告で海津市内にはわくわく油田スポットという形で9ヶ所、南野町平田町会長に公共施設と一部地元の方にご協力いただいたぶらぶらの持ち込み施設がございますそこで集めていただいたものを当社の方で、工場のPMという形で、軽油の代替になるって時計燃料BDF燃料を製造しております。

実は今当社バキュームカーとかゴミ収集車とかトラックで、会社全体では50台ほどあるのですが、その中で軽油車両が大体30台ありその多くに使用しております。

我々としたらまだまだ設備に能力がございますので、もっと市内からの天ぷら油をいっぱい集めていただいて、当社の方でリサイクルをさせていただいて、できることでしたら、先ほどちょっと変わってしましますが、市の公用車の中でディーゼルを使う車両がありましたら更に (事務局注：現在は環境課配属の乗用車1台がBDF車) お使いいただけるといいほか、あと海津市内の建設業の車両更新等ございましたら、天ぷら油のリサイクル燃料を使っていただいて、CO2の排出量削減とかできたらいいなとか考えますので、これらを精一杯リサイクルしていただいておりますので、何かありましたらよろしく願います。

中島委員 私は河川についてですけれども、気温が上がったときに非常に高くなっていて30度以上になると、そうすると水がこれは動いてないのだなと、あまり流れが少ないのかなと思うのです。流れのある河川については、水温は10度以上下がっているのも非常にいいのですが、やはりそこは水質が非常に悪くなりますので、やはりそういうところを注視していただいて、河川の方ちょっと綺麗にさせていただくと、また新たな原因があれば、いろいろ指導していただくといいかなと思います。

長尾委員 環境教育の推進ということで、先ほどの報告の中で、ドーム見学とか出前講座この数字を見てみますとですね、何か学校とどうやって環境教育を進めた方がいいというふうに思われるかもしれないのです

が、結構実は、環境教育というのは総合的な学習の時間という中で、位置づけてやっている学校があります。特に小学校ですね。学年はそれぞれ違うのですが、本校でいうと4年生が、実際この協働という言葉を使って考えると、行政と学校がタイアップして、なんて言えいいイメージがあるわけですが、県の方から、出前講座に来ていただいているような実績がございますし、ゴミ処理場の見学をするというような実践もあります。

残念ながらこの海津市としての連携といいますか、タイアップというのは実践としては少ないのかなっていうことは、正直感じました。市の行政の方と、政策の方とですね、どの辺でマッチングができていそうなのかっていうようなことを考えて、できたら、今勉強していることについて市の出前講座で教えていただけるといような、学校のニーズに合わせていただけると、勝手なお話なのですが、この数字というのは変わってくるような気がいたしました。

佐藤委員 国が定めた大きな将来の目標に向かって、少しずつではありますが、進んでいるのだなというふうに感じました。

堀 委員 先ほどのご報告があったようにもろもろ網羅していただいて、一生懸命やっていたというところがわかりました。それから日頃からですね、環境課の皆様と私共の環境関係の仕事を一生懸命行っていてお礼を申し上げたいと思います。

家電の補助金に関してなんですけど、結局実は去年の夏、エアコンの買い替えのキャンペーン、補助した県庁の脱炭素推進課というところがあつたのですけれども、ちょうどですね、夏の初め頃から始めまして一応想定としては半年ぐらい見ていたようですが、8月の中旬で終わりました。ものすごく早いんですね。

やっぱり家電に関しては実際に使用してみるか、家庭の皆さんがいろいろお金かかっているのですごく関心があつて、こういう補助金がもらえるという話だと、非常に訴える力があるといいますか、使いたいという市民の皆さんがたくさんいらっしゃるのではないかなと思っております。

(15 : 30 閉会)